

県外派遣報告書

審判員名	小田部 勝	所属	クラブ連盟
大会名	平成26年度 第28回関東クラブバスケットボール選手権大会		
期間	平成27年1月31日(土)～2月1日(日)		
会場	小田原アリーナ		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
1月30日(金)	審判会議	平塚商工会議所	
1月31日(土)	1回戦・2回戦	小田原アリーナ	
2月1日(日)	レクチャー・準決勝・決勝	小田原アリーナ	
会議 講義 内容			
<p>(1月30日 審判会議)</p> <p>今大会指名の伊藤亮介氏と稲葉威氏より、「信頼される審判を目指して」というテーマの下、ステップアップのために必要なことは何か。また、取り組んでいることは何か。を各審判員の考えや、伊藤氏の経験談(公認時、A級、AA級になってから)、稲葉氏の考えを交えながらの講義となった。</p> <p>ステップアップのために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎準備することが必要。1ゲーム然り、一年間を通しても・・・ ◎自分を出し切ることが必要(精神的な面でも) ◎2人で。もしくは3人での協力、連携が必要 ◎何か自分を変えないといけない <ul style="list-style-type: none"> →審判の判定力を変えないといけない ・審判以外のところでも ◎本当にA級、AA級を取りにいっているのか？ 恵まれている関東ブロックで、関東を活かせるようにする。 <p>信頼される審判のために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎あたり前のことをしっかりと行う。(体力、ジェスチャー 等) ◎求められていることを意識する。 ◎見られている(ゲーム中のコートの中の姿、コートの外での姿、立ち振る舞い、言動 等) ◎時間は作ること。 ◎仲間づくり(審判員だけではなく、プレイヤー、コーチとも) <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>(2月1日 レクチャー)</p> <p>関東ブロック長の安西郷史氏、及び、前関東ブロック長であった平育雄氏より、「よりよい判定のために」というテーマの下、パワーポイントを使い、様々なケースを想定し、プレイの見方(判定への準備)の講義があった。</p> <p>危険を察知、準備をする</p> <ul style="list-style-type: none"> →漠然と見ない。危険なところはどこか。(1番危険なところは？2番目は？・・・) <p>ゲームをコントロールする</p> <ul style="list-style-type: none"> →大切なのはゲーム中の気づき <ul style="list-style-type: none"> ◎準備とは→見ること じゃあ見ることでなに？ 1.見えるところをしっかりと見ること 2.今、見えないものを見る努力をする 3.全体を見る 4.心を見る(プレイヤー、コーチ、パートナーの心理) 5.ゲームの勝敗を見る(ゲーム展開、ゲームの終わらせ方) <p>今の自分がよりよい判定がどのようなものかを明確にする。 自分を出せるように。自分の意志を背伸びすることなく、等身大で。</p>			

実技			
担当試合	期 日	1月31日	男子 女子
	対戦カード	勉族(千葉県) VS 横浜ギガスピリッツ(神奈川県)	主審 副審
	相手審判	久保 裕紀(本部)	
ミーティング内容		主任 渡辺 裕樹(東京都)	
<p>グッドノーコール、グッドコールもあったが、コールしたものに、判定の根拠が薄いことが多い。もっともっとプレイを長く見る。または、もっと早い段階から捉まえておく必要がある。その他にも、当たり前のことをもっと一つ一つ丁寧にやり続ける習慣をつける。</p> <p>例えば、フリースローにするファウルなのか、スローインにするファウルなのかをもっと全体にわかるように、指し示す。</p> <p>オフェンスファウルを吹いたあと、そのあと、ボールがどういう状態になったのかを相手レフリーとアイコンタクトを取り、確認をする。</p> <p>ファウルされたプレイヤーもしっかり覚えておき、タイムアウト後でも誰がフリースローになるのかを把握しておく。(悪いチームは、あえて違うプレイヤーに打たせようとするかもしれない)</p> <p>ファウルコールしたあと、ファウルしたプレイヤーとファウルされたプレイヤーが、トラブルを起こさないかどうかを一度見守ってから、レポートイングに行くなど。</p> <p>また、コンタクトの大小ではなく、プレイヤーの意図的なものや戦術をくみ取って、すぐ笛を入れた方が良いものもあった。</p>			
全体の感想			
<p>今大会の頂いた割当は、関東派遣で初めての2回戦の全国出場決めの重要なゲームを割り当てて頂きました。笛一つ入れることの重みや、笛を吹かない判定をする事の重み、本当に一つ一つのプレイの判定に対して、プレイヤーからもアピールもあり、とても重みを感じ、もがきながら、接戦のなか、いろいろなものと戦った40分間でした。また、ゲーム以外のコートの外でも、徐々に再開する関東の仲間たちや、初めてお会いした方、また改めて深い話をした埼玉県内の仲間と、色々な審判の悩みや考え、審判以外の悩みなど、たくさんのお話を交わすことができ、意見も聞くことができ、とても貴重な時間を共有することができ、とても感謝しております。</p> <p>また、今年は、なかなか仕事の都合で思うように審判活動ができない日々が続き、辛かった一年間でしたが、初日の伊藤氏の話の中で、仕事で1年間まったく審判ができなかった話などを聞き、いろいろと自分と重ねて思うところがあり、それでも続けていくために環境をしっかりと整え、さらに努力をしていこうという意志を強く持つことができました。本当に素晴らしい話を聞くことができたと思っております。</p> <p>審判員としても人間としても、さまざまなことを吸収することができた今大会に派遣させていただき、吉田部長をはじめ、埼玉県の指導員の皆様、及び、安西ブロック長、そして、バックアップをして頂きました埼玉県のクラブ連盟の櫻井委員長をはじめ皆様、また、普段から応援してくれている家族、審判仲間たちに感謝しております。ありがとうございました。</p> <p>また、神奈川県の皆様におかれましても、自分のゲームもある中、さまざまな業務や車での送迎など、大変お世話になりました。誠にありがとうございました。この場をおかりし、たくさんの方々に審判ができていることに感謝と御礼を申し上げます。今後も謙虚に、感謝の気持ちを忘れず、一生懸命努力をして、連盟内や県内で恩返しをしていきたいという思いを掲げ、報告書を書きたいと思っております。</p>			